

三 酒々井町の縄文遺跡

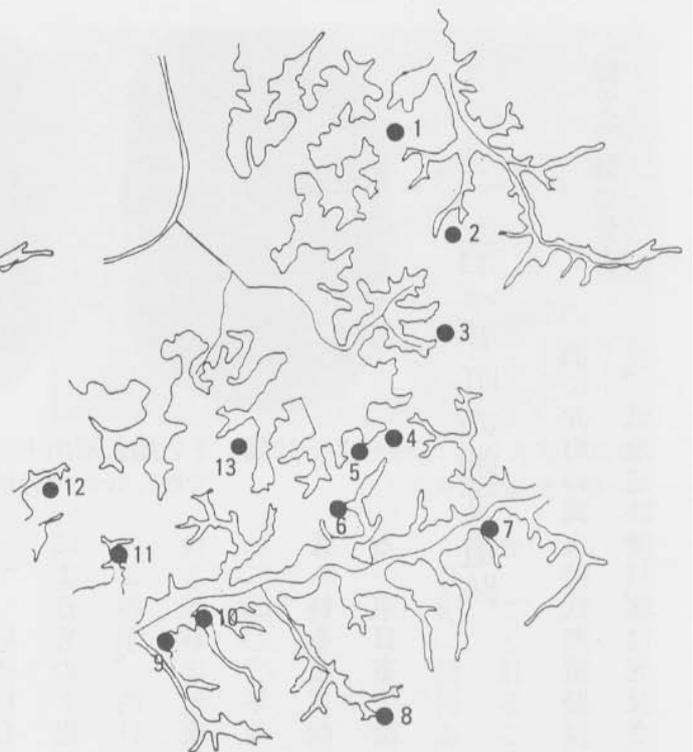
縄文遺跡の分布

酒々井町の縄文時代の遺跡は、わかっているもので四三か所を数えるが、いずれも台地上にあり、低地遺跡や貝塚は発見されていない。成田空港、ニュータウン、工業団地などの開発によ



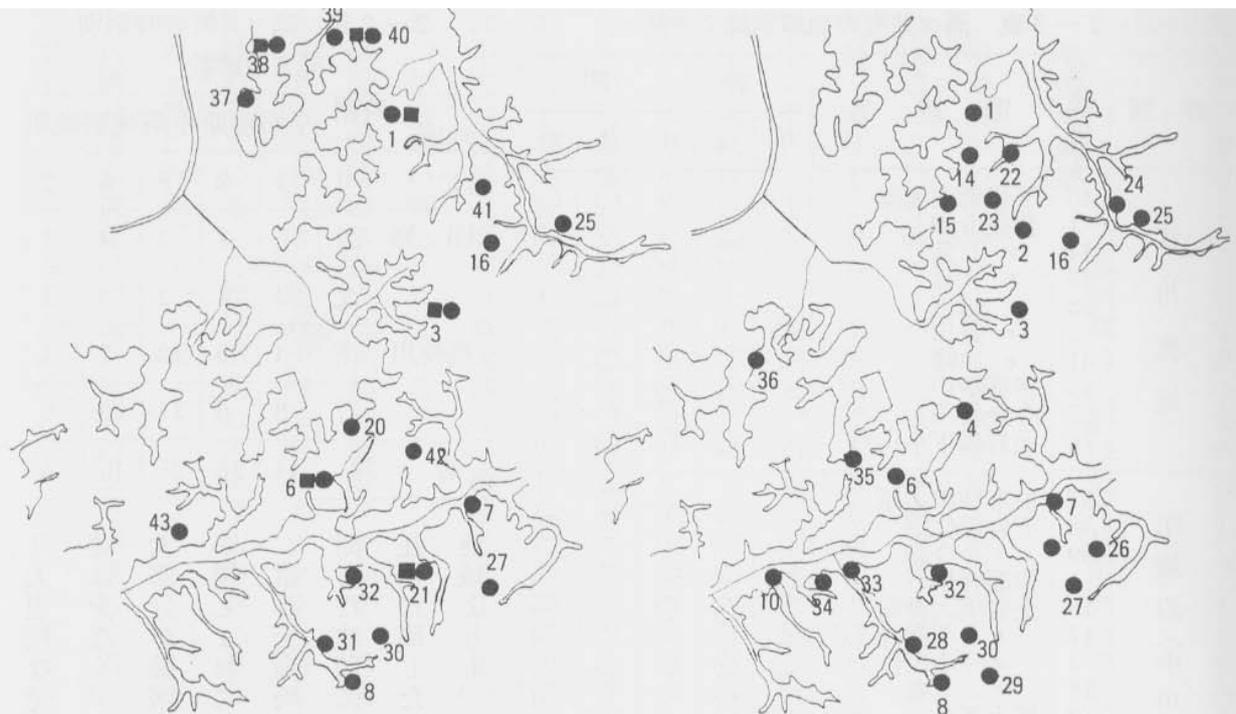
縄文時代前期

3. 上岩橋小山作遺跡
4. 尾上出戸遺跡
6. 墨総合公園内遺跡
7. 飯積台上遺跡
8. 墨新山遺跡
9. 馬橋鷺尾余II遺跡
10. 馬橋鷺田遺跡
14. 伊篠石堂遺跡
15. 上岩橋天神原遺跡
16. 上岩橋下小山作遺跡
17. 上岩橋不動遺跡
18. 上岩橋七曲遺跡
19. 尾上平台遺跡
20. 尾上柳作遺跡
21. 墨古沢北遺跡



縄文時代早期

1. 伊篠台畑遺跡
2. 伊篠野田遺跡
3. 上岩橋小山作遺跡
4. 尾上出戸遺跡
5. 尾上広畑遺跡
6. 墨総合公園内遺跡
7. 飯積台上遺跡
8. 墨新山遺跡
9. 馬橋鷺尾余II遺跡
10. 馬橋鷺田遺跡
11. 本佐倉北押出し遺跡
12. 本佐倉猿楽場(北大堀)遺跡
13. 酒々井朝日神社裏遺跡



縄文時代後・晩期

後期 ●
晩期 ■

1. 伊篠台畑遺跡
3. 上岩橋小山作遺跡
6. 墨総合公園遺跡
7. 飯積台上遺跡
8. 墨新山遺跡
16. 上岩橋下小山作遺跡
20. 尾上柳作遺跡
21. 墨古沢北遺跡
25. 今倉新田遺跡
27. 飯積宮田台遺跡
30. 墨古沢南Ⅰ遺跡
31. 墨古沢南Ⅱ遺跡
32. 墨古沢遺跡
37. 柏木和田ノ原遺跡
38. 下岩橋仁階遺跡
39. 下岩橋今林遺跡
40. 下岩橋内太郎遺跡
41. 伊篠白幡遺跡
42. 尾上新田遺跡
43. 本佐倉西屋上り遺跡

縄文時代中期

1. 伊篠台畑遺跡
2. 伊篠野田遺跡
3. 上岩橋小山作遺跡
4. 尾上出戸遺跡
6. 墨総合公園内遺跡
7. 飯積台上遺跡
8. 墨新山遺跡
10. 馬橋鷺田遺跡
14. 伊篠石堂遺跡
15. 上岩橋天神原遺跡
16. 上岩橋下小山作遺跡
22. 伊篠大日遺跡
23. 伊篠越徳遺跡
24. 伊篠新田遺跡
25. 今倉新田遺跡
26. 飯積藤株遺跡
27. 飯積宮田遺跡
28. 飯積台畑遺跡
29. 墨木戸遺跡
30. 墨古沢南Ⅰ遺跡
31. 墨古沢南Ⅱ遺跡
32. 墨古沢遺跡
33. 墨馬場遺跡
34. 墨大広台遺跡
35. 下台遺跡
36. 酒々井内方遺跡

2-13図 酒々井町の縄文時代別遺跡分布図（『酒々井町埋蔵文化財包蔵地所在調査報告書』より）

2-3表 酒々井町の地域別縄文遺跡

地域	遺跡番号	遺跡名	時期					
			早	前	中	後	晩	
江川流域	40	下岩橋内太郎				○	○	
	1	伊篠台畑			○	○	○	
	14	〃石堂		○	○			
	22	〃大越徳			○			
	23	〃野田			○			
	2	〃白幡	○					
	41	伊篠新田			○		○	
	24	今倉新田			○		○	
	25	上岩橋下小山作		○	○		○	
	16				○		○	
印旛沼(中川)流域	37	柏木和田ノ原				○		
	38	下岩橋仁階				○	○	
	39	〃今林				○		
	1	伊篠台畑	○					
	15	上岩橋天神原		○	○			
	17	〃不動作		○	○			
	3	〃小山作	○	○	○			
	18	〃七曲		○	○			
	19	尾上平台		○	○			
	4	〃出戸	○	○	○			
20	〃柳作	○	○	○		○		
13	酒々井朝日神社裏	○						
36	〃内方			○				
高崎川流域	北岸	5	尾上広畑	○				
		42	尾上新田	○			○	○
		6	墨総合公園	○	○	○	○	○
		43	本佐倉西屋上り	○			○	○
		11	〃北押出し	○				
		35	酒々井下台	○		○		
	南岸	7	飯積台上	○	○	○	○	
		26	〃藤株台			○	○	
		27	〃宮田畑			○	○	
		28	〃古沢北		○	○	○	
		21	〃墨			○	○	○
		29	〃古木戸			○	○	
8	〃新山	○	○	○	○			
30	〃古沢南 I			○	○			
31	〃古沢南 II			○	○			
32	〃古馬場			○	○			
33	〃馬大台			○	○			
34	〃橋鷺尾余	○	○	○	○			
9	馬橋鷺田	○	○	○	○			
10	〃鷺田	○	○	○	○			

2-2表 酒々井町の時期別縄文遺跡数

地域	時期	早期	前期	中期	後期	晩期
		江川	1	2	8	5
印旛沼		5	7	3	4	1
高崎川	北	4	1	2	3	1
	南	4	5	12	7	1
	計	8	6	14	10	2
合計		14	15	25	19	5

り大規模な発掘調査が行われた近隣の市町村と比べると、発掘調査された遺跡は少なく、東関東自動車道のために墨古沢遺跡、中央第住宅地造成のために大部分が破壊された酒々井朝日神社裏遺跡などが、その折調査されなかったのが惜しまれてならない。

遺跡を高崎川流域、成田市台方から印旛沼にそそぐ江川流域、印旛沼に直接面した地域に分けると、2-2表・2-3表のようになる。遺跡数は高崎川・江川に面した地域と、印旛沼に面した地域とをくらべると、高崎川・江川流域地域よりも、印旛沼に直接面した地域の方が少ない。これは、台地と

低地の比高差が印旛沼に面した地域の方が大きく、水を求めるのに都合のよい比高差の少ない所を好んで住んだのかも知れない。

早期の遺跡 草創期の土器は酒々井町では発見されていないが、出土地不明ながら大型尖頭器が採集されている。

早期前半の遺跡は、本佐倉猿楽場・墨総合公園・墨新山などで撚糸文を施した土器が発見されている。猿楽場遺跡は国道二九六号線バイパス工事で発掘調査され、早期初頭の井草式土器が検出されている。住居跡は発見されなかったが、焼け土とともに子母口式土器も同じ地点から発見され、また土偶と思われる逆五角形に近い形をした、高さ三・九センチメートルの土製品と、石斧、削器と思われる石器も出土している。

早期末には海進により印旛沼にも海水が入り込み、後期前半まで海の時代が続いたとされている、沼周辺には鹹水産のハイガイやハマグリを主とした茅山期の貝塚が九か所も形成され、貝塚以外の遺跡数も増加している。酒々井町でも伊篠台畑、上岩橋小山作、尾上出戸・広畑、酒々井町朝日神社裏などの印旛沼に面した地域や、馬橋鷲尾余・鷲田、飯積台上、墨新山、本佐倉北押出しなどの高崎川流域で茅山式土器が発見されている。中でも酒々井朝日神社裏遺跡は中央台団地造成のため大部分が破壊されてしまったが、土器の散布が多く、切り通しの断面に焼土が何か所もみられ、炉穴跡が確認されている。

伊篠台畑遺跡は京成宗吾参道駅南の台地で、早期の茅山式土器と中期から後期にかけての土器の大散布地であるが、早期の土器は台地の西側崖際のチビッコ天国入り口付近で発見され、中期以後の土器は台地中央部から東側に濃く散布している。これは早期の人達は印旛沼に面した所で生活し、中期以後の集落の人達は江川の谷を利用したものと思われる。

馬橋鷲尾余遺跡は、東京電力の送電線鉄塔建設に伴って発掘調査が行われ、茅山期の炉穴が出土した。出土地点は変電所から県道をこえた西側の段丘上で、炉穴は不整形な長円形を呈し、長径二・一メートル、短径一・一メートル

で東西方向をむき、西側に燃烧部、東側に焚口部があり、焚口は壁が傾斜して四〇センチメートルほど掘られ、底面は平らで中から鉢形時が検出された。

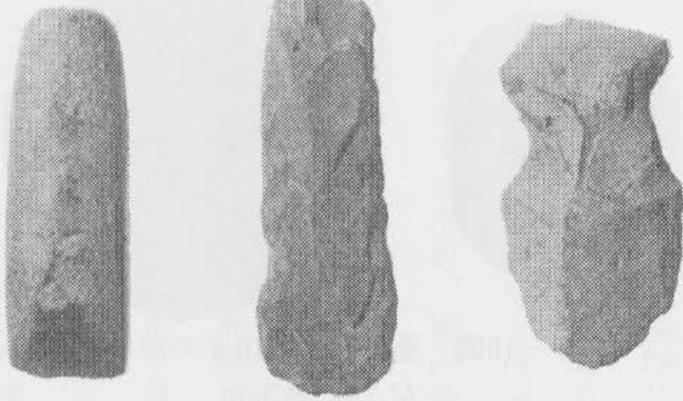
前期の遺跡 前期の遺跡は印旛沼に面した地域では、上岩橋天神原・不動・小山作・七曲・尾上出戸・平台などがあり、江川流域では伊篠石堂、上岩橋下小山作、高崎川流域では飯積台上、墨新山、馬橋鷺尾余などがある。

上岩橋七曲遺跡は大室台小学校東側の台地で、前期関山式土器の散布地であるが、数年前畑を耕作中、黒土の落ち込みがあり、さらに深く掘ったところ、ハイガイ、カガミガイ、ハマグリ、アカニシなどの貝と土器が検出された。今後の調査によって住居跡や貝塚が発見されるかも知れない。

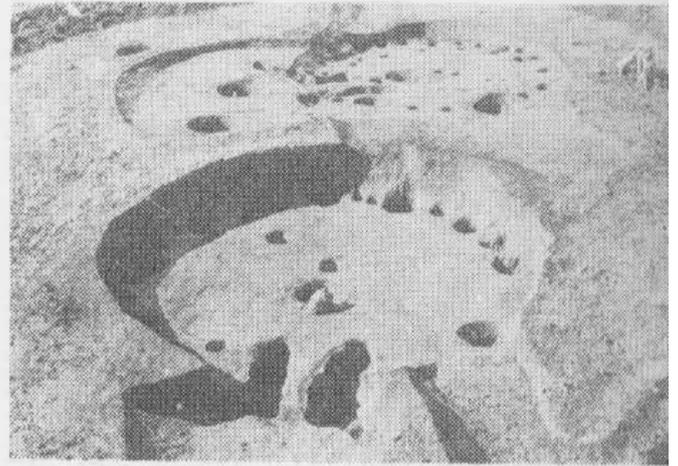
早期から前期にかけての遺跡は、東酒々井団地が造成された中川の流れる印旛沼に面した台地上に多く分布するが、印旛沼への海水の流入と関連あるものであろう。

中期から晩期の遺跡 中期から後期にかけての遺跡は、田ヶ崎側の南側と、江川の流域に大きな集落がつくられた。早期・前期の遺跡は散布する土器の量は少ないが、中期以後の遺跡は面積が広く、土器の量も多くて、石斧や磨石、石鏃なども地表で採集され、長期間にわたり継続して集落が営まれたことを物語っている。伊篠台畑、墨古沢、飯積藤株などは、広い台地全体に多量の土器の散布が見られる大集落の遺跡である。

早期から続く伊篠台畑遺跡は、西側は印旛沼をのぞみ、低地と台地の比高差は二五メートルほどある。東側は江川の谷で、低地との比高差は一〇メートルくらいである。発掘調査されていないので具体的なことがわからないが、台地中央部から東側にかけては中期後半から後期の土器が多く、地点を買って晩期の土器も発見されている。江川の谷にそって伊篠石堂・大日・野田、伊篠新田、今倉新田、上岩橋下小山作の遺跡があるが、土器の散布は台畑遺跡ほど多くなく、台畑遺跡を主集落として一つのまとまりをもって形成されていたものと思われる。台畑遺跡から長さ一〇・一センチメートル、重さ一七五グラムの翡翠（硬玉）製の大き珠が発見されているが、翡翠は新潟県糸魚川地方から運



2-15図 墨古沢遺跡出土の石器
左 磨製石斧 長さ11.4cm
中・右 打製石斧



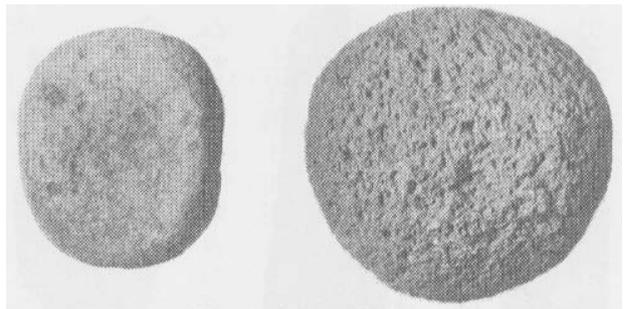
2-14図 伊籾白幡遺跡の縄文時代住居跡
(千葉県文化財センター提供)

ばれたもので、これだけの大きな大珠は全国でもあまり発見されていない。このような大珠を持ちえた特殊な人の存在が考えられる。(口絵写真参照)。

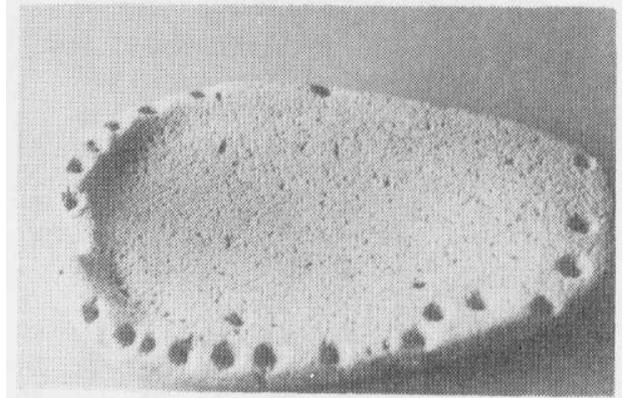
白幡遺跡は、伊籾字野田の江川によってつくれた支谷の奥にあるが、成田空港二期工事の代替地となり発掘調査が行われた。くわしい報告小は出されていないが、標高三〇メートルほどの東側にゆるやかに傾斜する台地上にあり、堀ノ内期の住居跡が一九、埋甕施設七、土壌一〇が検出された。住居跡は凡て平面が径六メートルほどの円形で、柱穴は壁柱のように壁にそって配列されているが、前期の壁柱穴と違い深くしつかりと掘られ、炉は中央に床を掘りくぼめてつくられていた。住居跡は台地の南縁にそって配置され、中央部は空白の広場になっていて北側に三軒の住居跡が発見された。そのうち二軒は入り口の施設をもった住居跡で、付近から土偶や石剣が出土し、甕を埋めた施設が六基も検出され、祭祀に関係があったのではないかと思われる。

墨古沢遺跡は高崎川の南に位置し、東関東自動車道酒々井パーキングエリア付近一帯に広がる大きい遺跡であるが自動車道建設時に調査されなかったのが悔やまれる。新山遺跡、古沢南遺跡と同じ台地上にあり、中期の土器の散布は古沢地区の道祖神付近に濃厚で、とくに石斧や磨石が多く発見された。後期の土器が東側の谷をこした古沢北遺跡に多く散布するのは後期にかけて集落の移動が行われたからと思われる。

飯積藤株遺跡は高崎川の南、古沢遺跡より二つの支谷をこえた上流にある。隣接の宮田台・台畑と広汎な地域にわたって中期の厚手の土器が多量に散布し、



2-16図 墨古沢遺跡出土の磨石
左 径 9.3cm



2-17図 飯積藤株遺跡出土の石皿

とくに藤株地区の畑では濃厚にみられる。しかし後期の土器は発見されず、中期の大集落は後期になると何処かに移動してしまっただのである。強いて移動地を求めれば谷を越した富里町中沢字高野台に後期の土器が多く散布しているので、この遺跡が考えられる。

晩期の遺跡は下岩橋仁階・内太郎、伊篠台畑、上岩橋小山作、墨古沢北と五か所に減少するが、これは関東地方一帯にみられる現象である。

印旛沼の貝塚

印旛沼は、早期末より後期中頃まで海の時代が続いたとされている

る。印旛沼に面した地域では、早期末茅山期にハイガイ・ハマグリなど海水さんの貝塚で形成された純鹹貝塚が九か所もつくられたが、その後、後期後半にヤマトシジミを主として、アサリ、オキシジミなどの混入する主淡貝塚がつけられるまで前期、中期の貝塚は発見されていない。周辺地域をみると、前期のものは印旛地区では、長沼にそぐ根本名川流域の成田市久米で鹹水産の貝塚が一か所発見されているだけだが、江戸川沿いの奥東京湾と呼ばれる地域では、数多くの貝塚がつけられている。中期の貝塚は、印旛地区では利根川に面した栄町興津・麻生、成田市北羽鳥・宝田などで加曾利E期の純鹹貝塚が形成され、利根川下流域の香取郡んでも多くの貝塚が残されている。市川氏から市原氏にかけての東京湾岸では、中期から後期に抱えて環状の大貝塚が各地でつくられ、日本一の貝塚繁華地域とされている。これらの大貝塚の貝は、貝塚で生活していた人たちの食糧というよりも、大量に煮て干貝をつくり交易品としたとされている。また干貝は塩分を多量に含み、内陸部にすむ人たちの塩分の唯一の補給源であったといわれ、後期後半になり製塩技術が開発されて、製塩遺跡が出現すると大貝塚は形成されなくなってきた。

印旛沼に面した地域で、前期から後期後半まで貝塚がつくられなかったのは何故であろうか。印旛沼に貝類が生息しなかったか、貝を食べなくても食糧が豊富にあったのか、或いは東京湾岸の大貝塚から干貝を何かと交換して食べたかが興味ある問題である。しかし、湾岸の大貝塚が終焉を告げる頃、印旛沼周辺各地で、ヤマトシジミを主とした貝塚が形成されるのである。